

第67回 全国私立保育 研究大会

飛騨高山大会

2025年6月11^水日・12^金日・13^土日

会場：高山市民文化会館 他

募集要項

APPLICATION GUIDELINES

ホイク・ド・ワーク・マルケ

ニッポンのまんなかで
“こどもまんなか”を語る



主催：公益社団法人全国私立保育連盟／一般社団法人岐阜県民間保育園・認定こども園連盟

シンポジウム

大会1日目
2025年6月11日(水)
高山市民文化会館 大ホール・小ホール

ホイクドターケサミット

～始発駅は飛騨高山。保育に懸ける情熱の源を辿る旅にでかけよう～

講師 無藤 隆・汐見稔幸・秋田喜代美

司会：脇淵竜舟
岐阜県民間保育園・認定こども園連盟研修部長

全国から「保育や幼児教育に情熱を傾けて取り組んでいる人たち」＝「ホイクドターケ」が集う今大会。その始まりに際し、現在の保育業界で最も熱く、長く、子どもたちのことを考え続けておられるであろう3名の先生方に参集頂きます。

保育の世界に入ったきっかけ、これまでの歩みや人生におけるターニングポイント、喫緊で考えている課題、後に続く研究者や保育者へのメッセージなど、講師の先生方の真に迫ることを通して、混迷極まる現在の保育や子育て、その先の子どもたちの未来につながるヒント、それらに関わっていくための情熱をご参加の皆様へ受け取って頂ける時間になれば幸いです。



無藤 隆 (むとう たかし)

白梅学園大学名誉教授

専門：保育・幼児教育、小学校教育

経歴：東京大学教育学部卒業、東京大学教育学研究科博士課程中退

東京大学新聞研究所助手、聖心女子大学助教授、お茶の水女子大学教授、白梅学園大学学長・教授などを経て現在。

社会的活動：

日本質的心理学会理事長、日本発達心理学会理事長、文部科学省中央教育審議会教育課程部会長、内閣府子ども・子育て会議会長、などを経て、現在、国立教育政策研究所上席フェロー、日本乳幼児教育・保育養成学会理事長、文部科学省・幼児教育と小学校教育架け橋特別委員会委員長など。

主な著書：

「幼児教育のデザイン」(東京大学出版会)、「3 法令ガイドブック」(共著、フレーベル館)、「新しい教育課程におけるアクティブな学びと教師力・学校力」(図書文化)、「心理学」(共著、有斐閣)、「子どもの発達からみる「10の姿」の保育実践」(共編著、ぎょうせい)、その他。

シンポジウム

汐見稔幸 (しおみ としゆき)

一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事
東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長・
全国保育士養成協議会会長・日本保育学会理事(前会長)



専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。初代イクメン。父親の育児参加を呼びかけた「父子手帳」の著者。ユーモラスでわかりやすい語り口の講演は定評があり、保育者による本音の交流雑誌『エデュカーレ』編集長や持続可能性をキーワードとする保育者のための学びの場『ぐうたら村』の村長でもある。NHK E-テレ『すくすく子育て』などメディアへの出演も多数。

最近の主な著書：

- 『学校とは何か』2024年(河出書房新社)
- 『新時代の保育のキーワード 乳幼児の学びを未来につなぐ12講』2024年(小学館)
- 『見直そう! 0・1・2歳児保育 教えて! 汐見先生 マンガでわかる「保育の今、これから」』2023年(Gakken)
- 『汐見先生と考える こども理解を深める保育のアセスメント』2023年(中央法規出版)
- 『子どもの「じんけん」まるわかり』2021年(ぎょうせい) ・『教えから学びへ』2021年(河出書房新社)
- 『今、もっとも必要なこれからのこども・子育て支援』2021年(風鳴舎)
- 『エール イヤイヤ期のママへ』2021年(主婦の友社) ・『エール プレ思春期のママへ』2021年(主婦の友社)
- 『保育者のためのコミュニケーション・トレーニングBOOK』2019年(ぎょうせい)
- 『0・1・2歳児からのていねいな保育』全3巻2018年(フレーベル館)
- 『汐見稔幸 こども・保育・人間』2018年(学研) ・『「天才」は学校で育たない』2017年(ポプラ社)
- 『人生を豊かにする学び方』2017年(筑摩書房)
- 『さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか』2017年(小学館)、ほか多数。

秋田喜代美 (あきた きよみ)

学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授

専門：保育・幼児教育、学校教育、教育心理学

経歴：東京大学文学部・教育学部卒業、

東京大学教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)

東京大学教育学部助手、立教大学文学部講師・助教授、東京大学大学院教育学研究科教授を経て、東京大学発達保育実践政策学センター初代センター長、東京大学大学院教育学研究科長・学部長を経て2021年より現職。

社会的活動：

日本保育学会第7代、第9代会長、日本発達心理学会第4代代表理事、日本読書学会第19代会長。現在、こども家庭庁子ども家庭審議会会長、文部科学省中央教育審議会教員養成部会長、同教育課程副部会長、内閣府全世代社会保障構築会議委員等、東京都こども未来会議会長。

主な近著：

「遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育：協働探究への誘い」(中央法規出版)、「園内研修でもっと豊かな園づくり：学びが広がる・深まる」(共著 中央法規出版)「研修アドバイザーと共に創る 新しい園内研修のかたち」(フレーベル館)、「人はいかに学ぶのか：授業を変える学習科学の新たな挑戦」(監訳、北大路書房)、「ICTを使って保育を豊かに：ワクワクがつながる & 広がる28の実践」(共編 中央法規)「保育のこころもち 全8巻」(ひかりのくに)等。



分科会

第Ⅰ群

第7分科会

情報発信のアイデアとその効果を考える — 園広報と保護者との関係作りの考察

助言者 普光院亜紀
保育園を考える親の会顧問

提案組織 愛知県/明照保育園
北九州市/認定こども園リアンたかのす保育園
沖縄県/かりゆし諸見保育園

趣 旨

保育に対する保護者の理解と協力を得る上で、園からの情報発信は欠かせません。紙による園だよりやクラスだよりといったオーソドックスなものはもちろん、InstagramやFacebookなどのSNSやICTの活用など、様々な手段で積極的に広報活動を行っている園も少なくないでしょう。また、最近は都市部であっても定員割れの園が出てくるなど少子化が加速度的に進む中、園児の獲得という点においても広報の重要性が増しています。この分科会では、発表者はもちろん参加者の園それぞれの広報物やアイデアを持ち寄って検討すると共に、それらが保護者や社会の「知りたい」という要求に本当に応えられているのか、「情報の受け取り手」の立場から考えます。

討議の柱

- ① 受け取り手（保護者など）が求める情報とは
- ② 広報する上でのこだわり
- ③ 多種多様な広報手段とその実例

第8分科会

小学校への連携と接続を考える

助言者 今村光章
岐阜大学教授

提案組織 札幌市/認定こども園菊水元町第二保育園
神戸市/幼保連携型認定こども園 若竹こども園
大分県/大在愛育こども園

趣 旨

平成30年の指針・要領の改訂で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。また、令和5年には文科省によって「幼保小の架け橋プログラム」がとりまとめられました。義務教育課程とのつながりをこれまで以上に強く意識せざるを得ない中で、遊ぶことを通して学ぶという保育あるいは幼児教育の独自性を担保しつつ、スムーズな小学校への接続を促すプログラムの意義について考えます。

討議の柱

- ① 幼児期の遊びの価値を改めて考える
- ② 具体的な接続期プログラムの考察
- ③ 小学校との連携